

ご存じですか！文化財

71

「天保九年銘日出安村扶助田記念碑」

市指定史跡 平成16年3月8日指定



問合せ
生涯学習課
(☎0480・62・1223)



所在地 日出安970(駒形神社内)

この碑の上部には「積金贖質田記」とあります。これは金を積み質田を贖う(注1)の記と読めます。碑文からは、江戸時代の終わり頃、苦しい暮らしの中、村人同士が助け合ったことがうかがわれます。

この頃、日出安村では質入れや売却した田畑が数百畝(注2)に及んでいました。これを憂えた篤志家などが賃金を蓄え、生活に困窮する村民に貸しました。そして、村民も節約し農業に励み、数年後には田畑を買い戻すことができました。そのため、天保6〜7(1835〜6)年は全国で

凶作による食糧難に苦しみ逃げ出す者がいましたが、この村ではいなかったということです。

天保9年、生活に余裕のある人々が私財を出し合い、五十畝の麦田を設けました。これを扶助田とし、その収入によって困窮する者を救い、生活にあえぐ者が出ないことを目指しました。

なお、この碑の書と撰文は幸手宿の儒者・金子竹香によるもので、天保9年正月造立されました。

※注1 買い求める、注2 数ヘクタール

